

令和5年度「総合的な探究の時間」全体計画

秋田県立秋田南高等学校

生徒と学校の実態
<ul style="list-style-type: none"> 県内屈指の進学校として、各界で活躍する同窓生を多数輩出している。 ほぼ100%の生徒が大学への進学を希望している。 部活動加入率が高く、学業との両立を目指している。 スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業(H27～R1)の成果として、主体性や発信力を備えた生徒が育っている。また、探究活動に対して大きな期待感をもって入学してくる生徒が多い。 令和3年度から、文部科学省SGHネットワーク参加校として、引き続き探究活動の充実とグローバル人材の育成に取り組んでいる。

校訓
<p>独立自尊 (人に頼らずに自己の人格と尊厳を保つこと)</p>
基本理念
<p>郷土や国家を支える高い志と国際的な視野を備えたグローバルリーダーの育成</p>
教育目標
<p>教育基本法並びに教育に関する公法に則り、独立自尊の精神を養い、健全な心身と豊かな個性を育て、郷土・国家及び国際社会の発展に貢献し得る有為な人材を育成する。</p>
令和5年度の重点目標
<p>高い志を貫き、目標の実現に向けて主体的に取り組む態度を育てるとともに、ふるさとや世界に貢献するグローバルリーダーとしての資質・能力を育む</p> <p>＜グローバルリーダーとして身に付けさせたい3つの資質・能力＞</p> <p>①基礎的な知識・技能： 探究や協働の基礎となる力 ②探究力： 主体的に課題を見出し、探究することにより答えを導き出す力 ③協働力： 対話を通して互いに尊重し合い、良好な関係をつくり、ともに探究・創造する力</p>

地域・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> 地域有数の進学校として、卒業後の進路を大学進学に見定め、高校生活を文武両道にわたって充実させ、地域や日本および国際社会のリーダーとして、その発展に寄与する人材を育成することが求められている。 PTA活動への関心が高い保護者が多く、生徒の進路実現や教育内容の充実に向けた教育活動の推進にきわめて協力的である。 進学を軸とする中高一貫教育校となって8年目となり、本校の教育活動やその成果、進学実績等に対する地域や保護者の注目度は高いものがある。

総合的な探究の時間の目標
<p>各教科・科目で身に付けた知識・技能を活かしながら、現代的な諸課題や幅広い学問分野などのテーマについて、グローバルな視点をもって課題解決を目指す協働的な探究活動を行い、成果を地域や国際社会に向けて発信・実践することを通して、グローバルリーダーに不可欠な資質・能力の育成を図る。</p>

探究課題（扱う研究テーマ）	探究活動を通して育成を目指す資質・能力			
<p>現代的諸課題の解決と学術の探究 ～ ふるさとや世界に貢献するグローバルリーダーへ～</p> <p>《高1 国際探究》 持続可能な社会に向けて、グローバル課題の解決策を提案する。</p> <p>《高2・高3 学術探究》 幅広い社会課題や学術的問題を、専門的にグループで研究する。</p> <p>《高2・高3 総合探究》 自身が将来深めたい学問分野のテーマについて、個人で研究する。</p>	3つの柱	秋田南高校で グローバルリーダーとして 身に付けさせたい資質・能力	①基礎的な知識・技能 ②探究力	
	知識及び技能	①、②-a、②-b、②-d	a) 課題設定能力 b) 課題探究能力	課題意識をもつ 情報の収集と選択
	思考力、判断力、表現力等	②-a、②-b、②-c、②-e	c) 論理的思考力 d) プレゼンテーション能力	情報分析・考察と仮説検証 考えや主張を伝える
	学びに向かう力、人間性等	②-a、②-b、②-d、②-e、③	e) 実践力	研究成果の発信と実践
			③協働力	

学 習 活 動			
名称	国際探究	学術探究	総合探究
対象	高校1年生 全6クラス	高校2・3年生 学術探究コース 各学年 1クラス	高校2・3年生 総合探究コース 各学年 5クラス
目標	SDGsに代表される現代的なグローバル課題をテーマとして、課題の背景や要因を考察し、論理的に解決策を提案する力を育成する。また、国際社会の多様性や異なる文化などに対する理解を深め、広い視野と課題意識を育むとともに、基本的な探究の方法を身に付ける。	社会や学術の諸問題について協働的・専門的に探究するグループ研究を通して、課題の背景や要因から論理的に解決策を考察して、英語でプレゼンテーションし、また論文にまとめ、成果を社会に発信・還元する力を身に付けるとともに、将来の専門的な研究につなげる。	将来学びたい学問分野についてテーマを定めて個人で探究する活動を通して、その分野の現状や課題を知り、解決に向けて調査・考察を進め、成果をまとめて表現する力を身に付ける。自身の将来の学びや進学先を主体的に考え、具体的な進路選択に結びつける機会とする。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス SDGs入門講座 探究スキル講座 大学教員等による専門講座 夏休み個人レポート作成 グループ編成、研究テーマ設定 大学教員による研究概論講座 フィールドワーク(現地調査活動) 外部講師によるプレゼンテーションセミナー 成果発表会(教室発表・ステージ発表) 次年度探究コース別ガイダンス 	<p>(2年次)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ編成、テーマ設定 英語でのテーマ発表会(イングリッシュセミナー) アカデミックツアー(大学・研究機関等での現地調査) 外部講師による班別プレゼンテーション指導 公開成果発表会(公共ホールで英語発表) 研究論文作成 <p>(3年次)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践・発信活動(グローバル・ミーティング) 研究論文完成 進路実現に向けた実践的活動 	<p>(2年次)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人テーマ設定・学問分野別グループ編成 研究計画作成 研究テーマ発表会 外部講師による大学調査ガイダンス 大学現地調査(オープンキャンパス参加) 中間発表会 個人レポート作成 <p>(3年次)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果発表会(代表発表は下級生にも発信) 進路実現に向けた実践的活動
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> クラスやグループに対する共通の指導。 ICTを活用した調査と協働的な活動の充実。 各教科・科目に関連した指導の工夫。 フィールドワークなど体験的な活動の重視。 外部講師によるプレゼンテーションの基礎的指導。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ担当教員による対話を中心とした個別の支援。 ICTを活用した調査と協働的な活動の充実。 英語科等、各教科・科目に関連した指導の工夫。 大学教員の指導による専門的・発展的な研究の推進。 多様な表現手法や発表機会の重視。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員と生徒との対話を中心とした個別の支援。 ICTを活用した調査と協働的な活動の充実。 各教科・科目に関連した指導の工夫。 自身の生き方なり方を考え主体的な進路選択につなげる指導の充実。
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> 学年部のすべての教員による指導チームを編成。 クラスごとの講座は担任・副担任が指導。 グループ研究は、各グループに担当教員を配置して個別に支援。 地域の研究機関や行政機関等にて生徒が直接調査活動を行うフィールドワークを実施(オンラインも活用)。 プレゼン指導や英語力向上をねらいとした外部講師による講座を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年部教員4～5名による指導チームを編成。 グループごとに担当教員を配置して個別に支援。 連携協定を締結している秋田県立大学の教員と連携し、専門的な指導を行う機会を設ける。 長期休業中にフィールドワークを実施(オンラインも活用)。 アカデミックツアーで研究機関・グローバル企業等を訪問。 SGHネットワークや京都府教育委員会、県内各高校などと連携した交流や発表の機会を通して探究活動を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年部教員8～10名による指導チームを編成。 学問分野別に活動場所を設定。関連したテーマをもつ生徒同士が相互に探究活動を深めるようにする。 学問分野ごとに担当教員を配置して個別に支援。 大学や専門機関の研究の動向について、文献調査やインターネット調査の実施。図書室の活用。 外部講師を活用して研究分野の調査方法を学ぶ。 オープンキャンパス等を活用した実地調査を行う。
学習評価	<ul style="list-style-type: none"> 成果物・成果発表等の自己評価や相互評価の実施。 ポートフォリオ等を活用した評価の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果物・成果発表等の自己評価や相互評価の実施。 成果発表や研究論文の外部評価の導入。 ポートフォリオ等を活用した評価の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果物・成果発表等の自己評価や相互評価の実施。 ポートフォリオ等を活用した評価の充実。

各教科との関連
<ul style="list-style-type: none"> 各教科・科目の年間計画に、探究活動に活用できる学習内容を明示するとともに、総合的な探究の時間の年間学習計画にも各教科・科目の学習の活用場面を位置付け、教科横断的な指導となるようにする。 探究活動を通して学びの意義を実感させ、各教科・科目の学習に対する意欲と進路意識の向上を図る。

地域等との連携
<ul style="list-style-type: none"> 秋田県立大学による研究指導(連携協力協定)。 社会人講師等による講座や専門的な連携指導の実施。 実践・発信活動やフィールドワークにて、秋田市役所など行政機関や地域の企業・事業所等と連携。成果発表会の参観。 京都府教育委員会・京都府立高校との連携。 SGHネットワーク等による多様な交流や発表機会の充実。

中学校や進学先等との連携
<ul style="list-style-type: none"> 本校中等部3年生の学校設定教科「クリエイティブサイエンス」での探究活動との連携。 成果発表会等への中等部生の参加。オンライン等を活用した地域への発信。 大学生等、卒業生(秋田南GSO)の活用。 English Village等の講座や研究室訪問等、大学との連携。